

省力的な水稲不耕起乾田直播栽培法

[研究のねらい]

不耕起乾田直播栽培は耕起、代かき、育苗、移植作業が省略でき、最も省力化が期待できる栽培方法です。この技術は岡山県で開発され、県内でも日高地域を中心に導入されています。ここでは、不耕起乾田直播栽培方法と収量について検討します。

[研究の成果]

①乾田不耕起直播栽培のほ場準備や主な作業手順は次の通りです。

- ・圃場条件：排水の良い乾田が適しますが、漏水田には適しません。
- ・圃場の準備：冬期から早春に除草剤を散布し、雑草を枯らします。
- ・播種：その地域の移植期の1ヵ月前頃に播種します。播種量は10a当たり3～5kgです。
- ・水管理：播種後1ヵ月程度で入水します。
- ・除草：播種直後、出芽までに非選択性の除草剤を散布します。その後、入水までは適宜選択性除草剤を散布します。入水後、水持ちが安定してから水田用除草剤を散布します。
- ・その他：その他は移植栽培とほぼ同様です。田面が固いため、水田内での作業性は良好です。

②乾田直播栽培では移植栽培に比べて収量がやや少なくなります（表1）。

[成果の活用面・留意点]

①播種には専用播種機（2条歩行型や6条型等があります）（写真1）を用います。

表1 不耕起乾田直播栽培による生育、収量

栽培様式	品種	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂数 (本/m ²)	玄米収量 (kg/a)
直播	キヌヒカリ	8.31	73.1	308	52.0
	日本晴	9.14	79.1	331	55.9
移植	キヌヒカリ	9.18	84.9	298	55.7
	日本晴	10.1	84.1	295	62.9

注)平成9年5月1日播種、播種量:5kg/10a(乾籾)

移植栽培は6月10日移植の別圃場の数値(参考)



写真1 専用播種機(左:6条、右:2条)による播種の様子

実施年度：平成9～15年度

担当者：宮本芳城、川村和史、山本浩之、浅井良裕、森本哲矢